教えて藤田先生！質問「回答集」

（１）白っぽいニンジンになってしまい、きれいなオレンジ色になりません。
何が原因でしょうか？（７０代以上・上郡町）

「回答」⇒　ニンジンの奇麗なオレンジ色は色素が十分に作られないと薄くなります。特に日照不足、肥料の偏り、未熟なうちの収穫で起こりやすいです。土の状態（土が硬い、水分が多すぎる等）が悪いと色づきが悪くなることがあります。この場合は、肥料分に気をつけ、潅水は土の乾き具合をみていたします。また、品種を確認してください。白い品種ではなかったですか？白い品種でなければ、栽培環境が悪いか、生育状態が悪いかのいずれかです。

（２）トマトの皮を柔らかくする方法はありますか。（６０代・上郡町）

「回答」⇒　皮が固くなる原因は、水分や肥料が多すぎて実が急に大きくなり、果肉に比べて皮が発達するからです。肥料が多いと、果実も大きくなりますが、皮が硬くなりやすいのです。対策としては、①水やりを控えめにする、②元肥を適量にし、追肥は「第一花房が着果し、ピンポン玉くらいになったら」始める、③葉の色が濃緑色な場合は、追肥は１回しない、④皮が柔らかい品種を選んでやってみるなどです。この対策をしてもうまく行かない時がありますが、今より皮が柔らかい状態になる可能性が高いと思います。
しかし、水やりを少なめにしてしまうと甘味は増しますが、果皮がかたくなります。水やり、肥料やりはほどほどにということです！

（３）毎年トマトの大玉を作っているが、虫にやられたり、つる枯れで収穫が少なく終わる。肥料、水やり、虫対策を教えてください。（７０代以上・上郡町）

「回答」⇒　トマトの大玉品種の栽培は、中玉トマトやミニトマトよりもかなり難しく、害虫（アブラムシ、タバコガ等）や疫病、ウドンコ病、青枯れ病等の病気等にかかり、管理が大変になります。それを防ぐ対策としては、①肥料のやり方ですが、まず元肥は通常通りに（たい肥４ｋｇ／㎡、化成肥料１００ｇ／㎡、ようリン５０ｇ／㎡）、追肥は第１花房の果実がピンポン玉になってから始めることです。その際の、茎の太さも太すぎない方が無難です。そして、その後は２週間に１度の追肥（化成肥料３０ｇ／㎡）を行ないます。②水やりは、苗の植えつけ時にたっぷりと行い、あとはその環境に任せるやり方で良いのですが、雨が少なく晴れが１週間降らないときなどは潅水を考えておきます。水分がなくなると、成長や光合成に影響が出るからです。しかし、甘味という点では、水が少ない方が甘味の多い果実が収穫できます。これは事実です。水分ストレスが甘味と結びついていますが、葉がしおれてしまうよりも健全な育ち方をする方が無難と思います。③虫対策は、見つけたらすぐに対処することです。アブラムシは、①手でつぶして対処、②ハエ取り紙の要素を盛り込んだ粘着テープに誘導する、③牛乳を散布する（これは３日位続けないとだめ）、④自然農薬（アーリーセーフなど）を散布、⑤化学農薬マラソン乳剤などを散布するなどです。問題は病害で、疫病では、①自然農薬サンボルドー剤で予防する、②化学農薬ダコニール等で対処するなどです。

（４）家庭菜園を本格化させたいです。良い土づくりを続けるためのコツや失敗しない肥料の与え方の基本を教えてください。（５０代・上郡町）

「回答」⇒　良い土づくりのコツは、毎年必ず「堆肥」や「腐葉土」などの土壌改良剤というものを施してゆくことです。そうすれば、徐々にですが良い土づくりに繋がります。昨年より今年、今年より来年という感じです。毎年土が豊かになってきます。また、肥料の与え方ですが、一般的に言うと２つのやり方が考えられます。一つは、慣行農法と言って、化学肥料を中心に施すものです。もう一つは、有機農法と言って、有機肥料（鶏糞、魚粉、米ぬか、骨粉など）を使ってやる方法です。また、両者を混合されてする方法もあります。いずれの方法も、化成肥料ならば、元肥として、堆肥２～４ｋｇ／㎡、化成肥料１００ｇ／㎡、果菜類はようリン５０ｇ／㎡を基準に、追肥は３０ｇ／㎡の化成肥料を散布するなどです。有機肥料ならば、元肥は、堆肥４～６ｋｇ／㎡、鶏ふん３００ｇ／㎡、米ぬか１００ｇ／㎡、油粕１００g／㎡、果菜類はこれに魚粉を１００g／㎡加えます。また、追肥としては、ぼかし肥などを３００g／㎡施します。

（５）サトイモの根元から出る小さな芽はそのままにしておいて良いですか。（７０代以上・上郡町）

「回答」⇒　子イモから出る小さな芽は、残しておいても構いません。この処理方法としては、①そのまま残しておいて、多くのイモを収穫する、②わき芽を取ってイモを大きくしたい場合は、土寄せの時に取っておくことが望ましいです。家庭菜園の場合は、小さな芽を取らず色々なイモを楽しむことが一番だと思います。ただし、はじめから芽が２つあるような場合は、一つを取って１本にした方が良いとされています。

（６）トマトが毎年カメムシにすわれていいのができません。どうすればいいですか。（５０代・上郡町）

「回答」⇒　カメムシが出ると臭いなどが気になってしまいます。また被害も大きいので退治方法が問題となります。カメムシの数が少ない場合などは、手袋をして、手で取るのが一番です。ただ臭いが大変ですが。また、農薬を使いたくない場合も、手でカメムシを取るのが一番で、袋などに入れておいて処理します。この作業は、早朝にすることが賢明です、なぜならカメムシの動きが鈍く、チャンスだからです。また、物理的にカメムシの被害を抑える方法もあり、整枝をし、風通しを良くする、防虫ネットで防ぐ、木酢液などで忌避するなどが知られています。農薬は、自然農薬ピレストリン系パイベニカＶスプレーが効きます。化学農薬では、カメムシに効くもの、トマト類にかけられるかに注目し選びます。

（７）ヨトウムシやネキリムシなどの害虫の効果的な防除方法はありますか。
また、ハクサイの中に大きな虫が１個入ったりしています。（５０代・上郡町）

「回答」⇒　ヨトウムシは、見つけたら手で取る方法が一番良いのですが、その時はハクサイがやられているときでもあります。ですので、予防的に農薬をかけて栽培する方法が便利です。自然農薬では、ＢＴ剤を定期的にかけておくと良いと思います。ＢＴは、バチルス・チュウリンゲンシスという納豆菌の仲間で、生物農薬とも言われます。これが安心で便利です。また、化学農薬もあります。ネキリムシは、ヤガの仲間を総称して言います。色は灰色で、昼は根元や土の中におり、夜に出て害を及ぼします。この害を防除するためには、①土の中におりますので、植えつける土をふるいでふるうと、その上にネキリムシが残りますので、取り去ります。②ネキリムシには、化学農薬オルトラン粒剤等を植え穴にまいてから植えつける。③地上部を切られていたら、すぐに土を掘り起こし、ネキリムシを取って捕殺し、被害を止めることが大切です。

（８）雑草は抜いても抜いても生えてきます。毎年困っています。どうすれば楽に
なりますか。（５０代・上郡町）

「回答」⇒　雑草は抜いても抜いても、毎年出てくるので嫌になってしまいますが、さてどうしたら良いでしょうか？雑草の特徴をここで上げておきますと、その理由がわかってきます。①雑草と呼ばれる植物は、１株にできる種の数が多く、１株から数万の種を持つも種のもあり、その多くは発芽できる種子となります。②その種子が地面に落ち、また畑の中に落ちますと、１０年くらい休眠することができます。③そして、人間や動物が土を掘り起こすたびに地面に現れ、その種の特徴が光発芽種子であるために、発芽してしまい毎年芽が出てくるのです、しかもたくさんです。これが雑草がなくならない理由です。それですから、①毎年できるだけきれいな畑にすることをお勧めしています。そうすれば、１０年で畑がきれいになります。あるいは、②花が咲く前に刈り取って利用することです。花が咲かなければ種はできませんので。といっても、なかなか雑草は減りませんが・・・。③除草剤を使うということもできますが、これは畑ではお勧めできません。

（９）シソの苗を植えて育て中なんですが、葉っぱが３分の１くらい食べられてしまいました。無農薬で上手に育てる方法ありましたら教えていただきたいです。
（２０代・上郡町）

「回答」⇒　シソの葉がやられてしまったということですね！シソは、葉がやられてしまうと、食べるところがなくなってしまいますから大変です。一番良いのは、防虫ネットをかけて無農薬で栽培することです！そうすれば、ＯＫです。その次の手段として、自然農薬を使うことです。シソは、ヨトウムシなどにやられる確率が高く、ＢＴ剤を使えばＯＫです。ＢＴ剤は、生物農薬といわれ、これを摂食したヨトウムシは消化器官がやられ、脱水状態になってしまい死んでしまいます。ＢＴ剤は、人体には影響がありません。

（10）せっかく野菜を作っても収穫前に動物に食べられてしまうこともしばしば…。
良い対策はありますか？（４０代・山崎町）

「回答」⇒　獣害対策ですね！これは全国的に増えております。イノシシ、サル、クマ、ハクビシン、アライグマ、カラス、ヒヨドリ等の被害状況は昨今のニュース等の通りです。小さな動物であったら、例えばカラスやヒヨドリならば防鳥ネットで防ぐことはできます。しかし、イノシシやアライグマ、ハクビシンなどは柵、しかも電気柵をつけなければなりません。それでもダメなことはあります。これは、各地の農業改良普及センターやＪＡ(農協)とかに対策室みたいなものがあり、そこに聞くのが良いと思っています。また、種苗店やホームセンターに行き聞くのも宜しいと思います。何か対策用の特別な製品等を紹介してくれるかもしれません。ジャガイモやサツマイモなどは栽培時にイノシシに食べられないように、イモの出来る地面を金網で覆ってイモを動物から守る方法もあります。サルを防除するのはなかなか難しい問題です！爆竹などを定期的に鳴らすなどの方法もあります。この方法などを組み合わせて行くのが、今の所ベストと思います。

（11）① キュウリに虫が来て、はった（はう）所が白く傷になる。薬をまいても、また戻って来る。朝方とるしか対処はないといわれえたたが、本当にないのですか？
② なすびの先っぽが、いたむのは花がついたのを、取った方が良いのですか？
（６０代・佐用町）

「回答」⇒　①この虫が何かが微妙な所がありますが、恐らくウリハムシかハモグリバエと思います。ウリハムシだとすると、早朝ならば動きが鈍いので手で取りやすい状態になります。あるいは、農薬ですと、マラソン乳剤が効きますので散布してください。自然農薬ですとパイベニカＶスプレーが効きますよ！また、ハモグリバエだとすると、手で葉の跡の部分を手でつぶすとハモグリバエをつぶすことができます。化学農薬だとマラソン乳剤が効果的です。

「回答」⇒　②ナスの果実の先端部が傷むのには、「尻腐れ果」である場合と、害虫による場合があります。尻腐れ果の場合は、先端部（尻というのが正しいのですが）が黒くなって腐る障害です。ですので、カルシウム剤を葉面散布して防除する方法があります。また、ハダニやミナミキイロアザミウマが寄生した場合も先端部に近い部分が被害を受ける場合があります。ハダニには自然農薬アーリーセーフ等を散布する、ミナミキイロアザミウマには、ベストガード水溶剤等を散布します。